

パンの中の、小さな穴

目標：110 wpm（159語を85秒）。共通テストのリーディングは、これくらいの速さで読めると時間内に回せます。

やり方（タイムを測って読む）

①スタートと同時に本文を読む

②読み終わったら黒板・スマホ等の時計で秒数をメモ

③本文を見ずに設問へ

④答え合わせのあと同じ文章をもう一度読んでタイムを縮める（2回目が本番）

Break a piece of bread and look at the cut surface. It is full of small holes, and something made them. That something was alive.

Yeast is a single-celled organism, far too small to see without a microscope. When flour, water and yeast are mixed, the yeast begins to feed on the sugars present in the dough, and as it feeds it releases carbon dioxide.

The gas cannot get out, because the dough is soft and stretchy enough to hold it. It collects in small pockets, and the dough swells around each one. When the loaf goes into the oven the heat kills the yeast within a few minutes, but by then the structure has set, and the holes remain exactly where the gas left them.

The holes in a slice of bread are not decoration and not an accident. They are a record of something that was alive in the dough a few hours before you ate it.

(159 words) [語注] single-celled=単細胞の organism=生物 carbon dioxide=二酸化炭素 swell=ふくらむ

設問

本文を見ないで答えよう。

思考・判断・表現

(1)	この文章は主に何についての話？ ア. パンをおいしく焼くための手順のくわしい説明 イ. パンの穴がどのようにしてできるのか ウ. 酵母を顕微鏡で観察するときのこつ エ. 小麦粉にふくまれる糖の種類	1点 ()
(2)	気体が生地の外へ出られないのはなぜか。 ア. 生地がやわらかく、のびて気体を包みこむから イ. 生地の表面がすでにかたくかわいてしまっているから ウ. 気体が水にとけてしまうから エ. オープンの中の圧力が高いから	1点 ()
(3)	オープンに入れたあとについて、本文の内容に合うものは？ ア. 酵母は生き残り、穴だけが消える イ. 酵母も穴も、どちらも残らない ウ. 酵母は数分で死ぬが、構造はすでに固まっている エ. 酵母は熱を受けてさらに気体を出しつづける	1点 ()

1回目 () 秒 → WPM = 159 × 60 ÷ 秒数 =
()

2回目 () 秒 → WPM = () クリア条件: 3問正解 + 110wpm

速読ラダー 09 パンの中の小さな穴 | 解答と速く読むコツ

実力を伸ばすクラス 偏差値のめやす 50～60程度 主な学年のめやす: 高2

解答

(1)	イ	第2～3段落がしくみ。
(2)	ア	第3段落 soft and stretchy enough to hold it。
(3)	ウ	第3段落 the heat kills the yeast ... by then the structure has set。

3つの版の使い分け

同じ話題を、語数と目標スピードだけ変えた3つの版です（基礎=約130語・80wpm／標準=約160～220語・110～120wpm／発展=約170～225語・150wpm。発展版は設問も英語）。発展版で語数より速さを上げているのは、共通テストのリーディングが「長い1本」ではなく「短い文章を次々に」処理する形だからです。読解の3版とは軸が違います―速読は「支援の量」ではなく「どれだけの量をどれだけの速さで」を変えます。クラスの帯に合わせて1つ選び、その版のまま連番を重ねてください。版をまたぐとWPMの記録が並ばなくなります。

速く読むコツ

- ・1回目は語で止まらない。carbon dioxide のような専門語は記号として流してよい。
- ・because のあとに理由が来る。しくみ型の説明文では理由が問われやすい。
- ・2回目は答え合わせで気になった場所だけ確かめる。

記録 帯活動・自習で使うとき（同じ番号を日を空けて再挑戦してよい）

日付	教材番号	1回目WPM	2回目WPM	正解数